

スピーキングにおける継続的なタスクリピティション活動 が中学生の英語学習への動機づけに与える効果

橋本 慎一（東京家政大学大学院生）

キーワード：スピーキング，タスクリピティション，動機づけ

1. はじめに

本研究の目的は、スピーキングにおける継続的なタスクリピティション活動が中学生の英語学習への動機づけに与える効果を検証することにある。昨年度行った調査では、平成 26、27 年度に川崎市教育委員会研究推進校として取り組んだ One Minute Chat に 1 ヶ月間、継続的に取り組むことで生徒の 3 つの心理的欲求の変化を調査し、One Minute Chat が自己決定理論における 3 つの心理的欲求を満たす活動と成り得るか検証した。調査の結果、3 つの心理的欲求を満たす活動であることが予測される結果を得られたが、有意な上昇が見られなかった。そこで、本研究ではその後約半年間にわたる調査を継続して行い、3 つの心理的欲求を満たす活動であるかどうか調査し、更にクラスター分析を行うことにより、より生徒の個人差を考慮し、動機づけの変容を捉え、その効果を検証する。

2. 方法

(1) 参加者

公立中学校に通う第 2 学年生徒 101 名（男 45 名，女 56 名）である。

(2) 実施期間

2016 年 5 月から 2017 年 1 月（長期休業期間を除く）まで約 6 か月間、授業開始後に 'One minute Chat' の活動を毎時間継続して行った。

(3) 手順

質問紙は廣森(2006)で使用された「英語学習における心理的欲求支援尺度」および「英語学習における動機づけ尺度」を用い、6 か月間に渡る One Minute Chat による教育的授業介入を行い、介入前(2016.5 上旬)と介入後(2017.1 上旬)の 2 回のアンケートによる質問紙調査を実施し分析した。

表 1：3 つの心理的欲求得点の介入前後の平均値と標準偏差 (n = 88)

		授業介入前 (2016.5 上旬)		授業介入後 (2017.1 中旬)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
自律性	選択の自由が与えられている。	3.20	1.22	4.02	1.08
	どんなことが勉強したいか述べる機会がある。	2.79	1.14	3.84	1.02
	活動をするとプレッシャーを感じる。	2.55	1.31	4.13	0.95
有能性	先生や友達から褒められることがある。	2.97	1.17	3.58	1.17
	自分の強みに満足していると思う。	2.67	1.23	3.93	1.11
	よい成績が取れると思う。	2.91	1.33	4.32	0.97
	達成感を味わうことができる。	3.91	1.10	3.97	1.08
関係性	一緒に受けている友達とは、仲が良いと思う。	3.72	1.11	4.29	0.93
	友達と協力して勉強できていると思う。	3.84	0.92	4.30	0.94
	友達同士で学びあう雰囲気があると思う。	4.02	0.83	4.31	0.99
	協力的に取り組んでいると思う。	4.08	0.82	4.30	0.85

3. 結果と考察

(1) 3 つの心理的欲求の変化

表 1 は、第 1 回質問紙調査 (2016.5 実施) と第 2 回質問紙調査 (2017.1 実施) におけるコミュニケーション活動に対する心理的欲求の各下位尺度の項目の平均値と標準偏差の変化を示したものである。

表 2 は、3 つの心理的欲求の各

表 2：授業介入による 3 つの心理的欲求得点の変化 (n = 88)

	介入前		介入後		t 値
	Mean	SD	Mean	SD	
自律性	2.84	0.70	3.99	0.80	10.58 ***
有能性	3.12	0.82	3.96	0.93	8.42 ***
関係性	3.92	0.72	4.30	0.84	3.85 ***

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < 0.5$

下位尺度得点の平均の変化と *t* 検定の結果を示したものである。これらの授業介入前後の比較から、自律性 $t(87)=10.58, p<.001$, 有能性 $t(87)=8.41, p<.001$, 関係性 $t(87)=3.85, p<.001$ と 3 つの変数ともに有意に上昇を示した。よって約 6 ヶ月間の授業介入によって、One Minute Chat は 3 つの心理的欲求を十分に高めることができたと考えられる。

(2) 動機づけの変化

表 3 は、動機づけの下位尺度得点の平均の変化と *t* 検定の結果を示したものである。これらの授業介入前後の比較から、内発的動機づけ $t(87)=7.44, p<.001$, 同一視的調整 $t(87)=.87, n.s.$, 取り入れの調整 $t(87)=8.10, p<.001$, 外的調整 $t(87)=9.34, p<.001$, 無動機 $t(87)=3.92, p<.001$ という結果が得られた。

同一視的調整については元々平均得点が高かったせいもあり、有意差が見られなかったが、内発的動機づけ、取り入れの調整、外的調整については平均得点が高くなり、無動機においては平均点が低くなった。よって約 6 ヶ月間の授業介入によって動機づけの高まりが確認された。

(3) クラスタ分析による各動機づけスタイルにおける結果と考察

表 4 はクラスタ分析により分類された 4 つの動機づけスタイル群と生徒の変容を示したものである。授業介入の前後の 3 つの心理的欲求と動機づけの変化をあわせて検討すると次のようなことが考察できる。

One Minute Chat による授業介入は、3 つの心理的欲求のすべてを充足し、動機づけを高めることが確認された。授業で学んだ会話をベースとして自由会話を繰り返すことにより、生徒の自立性を喚起し、活動の中で達成度を記録したり、クラスの前で発表することで有能感を持たせ、コミュニケーションを目的としたペアによる会話活動を通して関係性を育んだ結果、3 つの心理的欲求を満たし、生徒の動機づけを高めることができた。各動機づけ群においても、その効果がそれぞれの動機づけ群の特性に応じて確認された。コミュニケーションで継続的なタスクリピーションが生徒の動機づけを高めることが確認された。

4. 引用文献

- Deci, E., & Ryan, R. (2002). *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: University of Rochester Press.
- 廣森友人 (2006). 『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』 東京: 多賀出版.
- 橋本慎一 (2016). 「スピーキング活動に必要な練習とは」『英語教育』 65(6), 18-19.

表 3: 動機づけ得点の介入前後の平均値と標準偏差 (n = 88)

	介入前		介入後		t 値
	Mean	SD	Mean	SD	
内発的動機づけ	3.53	0.99	4.27	0.76	7.43 ***
同一視的調整	4.00	0.85	3.91	0.75	0.87
取り入れの調整	3.40	0.80	4.11	0.71	6.66 ***
外的調整	3.00	0.76	4.00	0.95	7.20 ***
無動機	2.10	1.30	1.73	0.92	2.33 **

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < 0.5$

表 4: 各動機づけタイプの授業介入前後の心理的欲求と動機づけの変化

動機づけタイプ	3つの心理的欲求支援の変化			動機づけの変化				
	自律性	有能性	関係性	内発的	同一視的	取り入れ的	外的	無動機
「高動機づけ」群	⊕	⊕	⊕	⊕	Δ	⊕	⊕	⊕
「中動機づけ」群	⊕	⊕	⊕	⊕	—	⊕	⊕	⊕
「外発的動機づけ」群	⊕	⊕	⊕	⊕	Δ	⊕	⊕	Δ
「低動機づけ」群	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	Δ

(注) ⊕は有意な上昇 Δは有意な低下 —は有意な変化なし